記者発表資料

平成２６年１１月　５日
東 北 地 方 整 備 局

入札監視委員会の審議概要について
（第一部会第４回定例会議）

東北地方整備局入札監視委員会の平成２５年度第一部会第４回定例会議は、平成２６年２月２８日（金）に仙台市の東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要（別紙）についてお知らせします。

なお、第一部会第４回定例会議では、委員会が抽出した案件９件の審議が行われ、意見の具申又は勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問 い 合 わ せ 先

国土交通省　東北地方整備局
（第一部会）　仙台市青葉区二日町９番１５号　　TEL (022)225-2171（代表）

主任監査官	佐々木（ささき） 雄幸（ゆうこう）	（内線２１１４）
入札契約監査官	東海林（とうかいりん） 豊（ゆたか）	（内線２２２０）
契約管理官	福士（ふくし） 富也（とみや）	（内線２２２２）
技術開発調整官	松井（まつい） 幸一（こういち）	（内線３１２０）

東北地方整備局　入札監視委員会（第一部会）　審議概要

開催日及び場所	平成２６年２月２８日（金）　東北地方整備局　大会議室		
委員	部　会　長　京谷　孝史【(国)東北大学大学院 工学研究科土木工学専攻 教授】 部会長代理　熊谷　真宏【公認会計士・税理士】 委　　員　伊東　満彦【(学)東北学院大学 法科大学院 教授】〔欠席〕 委　　員　牛尾　陽子【(公財)東北活性化研究センター フェロー】		
審議対象期間	平成２５年１０月　１日　～　平成２５年１２月３１日		
審議案件	総件数　９件　（別紙－１ 審議案件一覧のとおり）		
工事	一般競争入札(政府調達)	１件	（備考） (1)工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 (2)指名停止等の運用状況 (3)談合情報等の対応状況 (4)再度入札における一位不動状況 (5)低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 について報告を行った。
	一般競争入札（政府調達以外）	３件	
	工事希望型競争入札	０件	
	指名競争入札	１件	
	随意契約	１件	
建設コンサルタント業務等		２件	
役務の提供等及び物品製造等		１件	
委員からの意見・質問、それに対する説明・回答	別紙－２のとおり		
委員会による意見の具申又は勧告の内容	別紙－３のとおり		

別紙－１

審 議 案 件 一 覧

【工事】

入札方式	工 事 名	工 事 種 別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事）	国道１１５号　玉野トンネル工事	一般土木工事	24	24	25.11.18	西松建設（株）	2,468,880	89.0	磐城国道

入札方式	工 事 名	工 事 種 別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	立根大橋外補強工事	鋼橋上部工事	4	3	25.10.4	ショーボンド建設（株）	222,810	91.2	三陸国道
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	北上川下流管内樋管ゲート修繕工事	機械設備工事	2	2	25.11.18	旭イノベックス（株）	86,100	92.2	北上川下流
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	みちのく公園南地区補修外工事	造園工事	1	1	25.12.16	（株）東北造園	87,465	99.7	国営公園

入札方式	工 事 名	工 事 種 別	指名業者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
工事希望型以外の指名競争入札方式	関山トンネル照明工事	電気設備工事	17	8	25.10.3	東北電化工業（株）	73,185	97.7	山形

入札方式	工 事 名	工 事 種 別			契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
随意契約方式	八幡平山系供養佛地区災害復旧工事	一般土木工事			25.10.7	万六建設（株）	245,700	99.2	湯沢

【建設コンサルタント業務等】

入札方式	業 務 名	業 種 区 分	手続への参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
簡易公募型競争入札方式	田瀬ダム耐震性能照査解析業務	土木関係建設コンサルタント	2	2	25.10.9	日本工営（株）	21,945	99.9	北上川統管

入札方式	業 務 名	業 種 区 分	手続への参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
簡易公募型プロポーザル方式	相馬福島道路（霊山～福島）事業監理業務	土木関係建設コンサルタント	3	3	25.11,26	事業監理セントラル・大林・公共用地補償機構・鴻池設計共同体	187,588	99.9	福島

【役務の提供等及び物品の製造等】

入札方式	業 務 名	業 務 分 類	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契 約 金 額（単位：千円）	落 札 率（単位：％）	備　考
一般競争入札方式	凍結抑制剤（塩化ナトリウム）購入単価契約【仙台】	役務の提供等	6	6	25.10.24	（株）東日本ソルト	107,123	98.8	道路部

別紙－２

１．報告	
意見・質問	説明・回答
質問なし	

２．審議	
意見・質問	説明・回答
１　国道１１５号玉野トンネル工事	
・この案件は、応札者が２４者あり競争が激しかったと思われる。トンネル工事自体施工が難しい中でゼネコンはまだゆとりがあるということか。 　競争性が働いて公正な入札になればいいとは思うが、逆に競争が厳しいと、資材や人件費が厳しい中で競争性が働いているように見えて、実はその裏側で事業の割り付けのようなものが行われているのではないかという見方も忘れてはいけない。入札の金額だけ見ると近接した差になっている。応札者が多ければ公平な競争原理が必ず働くというわけでもない。質問というよりは感想である。	・たしかにトンネル工事は工法的に難しいが、逆にトンネルの空間の中の施工なので､天候に左右されない。そのため工程管理がしやすいということもあり、人気が高いといえる。
・入札調書において、標準点と加算点で少数点第１位まで出ているが、どうして少数点が出てくるのか。	・施工体制評価点及び技術提案加算点の配点は、施工体制評価点が３０点満点、技術提案加算点で３０点満点となっている。例えば、技術提案で４テーマを求めた場合、１テーマ４点満点で合計１６点になるが、実際は１３点や１４点しか取れないことがある。そういう場合評価された点を技術提案加算点の３０点満点に置き換えると端数が出てくる。
２　立根大橋外補強工事	
・コリンズ検索で入札参加可能業者が２７０者で、申請書提出業者が５者、１者取り下げがあり、入札に参加した業者は４者である。ここまで入札参加者が少ない背景は何か。	・三陸沿岸の復興工事がかなり発注されているが、その関係で技術者等が不足していることが考えられ、入札参加業者数が少なくなっていると思われる。また、工種毎に人気・不人気の違いも明確に出ているともいえる。 橋梁工事の場合、鉄筋工、型枠工などの技術者が必要となり、さらに生コン打設をする工事の場合は、全国的に不足している技術者を使っての施工となる､また、生コン打設の時期がずれたりした場合は、施工ができ

意見・質問	説明・回答
	ない期間が生ずる。その間技術者を拘束することとなる。一般的に震災後は応札者数が減ってきている。そのため参加してもらえるように参加要件を広げたりしている。
3　北上川下流管内樋管ゲート修繕工事	
・この工事においてゲートのフラップ化を実施しているが、津波の時は有効である。 　今回フラップ化しているのは修繕予定の全部のゲートではなく、修繕の時期に合わせてできるところから実施しているのか。また、修繕をするしないの判断は、事務所が定期的に点検をして予算の範囲内で実施することになるのか。	・フラップゲートは、水位による自然開閉が可能なため、操作員不在でもゲートの開閉が行われ、震災時の津波遡上による河川氾濫の被害を防ぐことが出来る。 　修繕予定については、点検を実施してその中で優先度の高いものから予算を確保し、順次実施している。
4　みちのく公園南地区補修外工事	
・どうして１者の応札なのか。	・７者がダウンロードして公告内容を見ている。 　応札が少ないのは、工事規模が小さく魅力のない工事と判断したためではないかと推測される。
・１回目の入札額と２回目の落札した額では大きな開きがある。どのように考えればいいか。	・１回目の入札後、業者から提出された工事費内訳書を確認して補足の現場説明を行い、２回目の入札をした結果である。
・予定価格と市場のずれはないか。	・例えば､業者が材料メーカーの言い値で見積もると、差が出てくる可能性はある。
・この工事は建設業でなく造園業か。 　１億円の造園工事が参加業者が少なく不人気だったということは、震災の影響でそんなに造園業者の需要があるのか。	・この工事は工種が造園であるが、木を植えるというものではなく、園路や広場の整備で、むしろ土木工事に近い工事であり、一般的に参加業者の数は多くはない。
・造園工事は､技術要件が重要なのではないか。	・造園工事の施工実績があること、１級若しくは２級の造園施工管理技士の資格があることを要件としているが、特別な技術要件は必要としていない。
・仮に、造園工事の実績はないが、新規に工事を受注したいという場合は、要件に合致しないので参加できないことになる。 　要件を付けたことにより参加者が絞られる。それらが影響して入札価格が高めになったということはないか。	・造園といっても土木の工種の一種であり、仕組みとしては土木と一緒である。造園業界は、全国的にさほど大きな業者はなく､零細な企業が多いところであり、会社と施工地が離れたところの仕事を造園業者がするのはなかなか難しいところがある。それぞれの造園業者は､材料をその地域において調達することも重要で、参加要件を広げたからといって遠くの業者が競争に参加するのは、現実には難しい。今回の工事は、造園的なできばえも重要だが、植栽はあまり多くなく、通常の造園工事とは違う木道の補修工事等がメインになっているため、このような参加状況になったと考えられ

意見・質問	説明・回答
	る。
5　関山トンネル照明工事	
・入札不調後、指名競争入札に切り替えて実施しているが、落札率が 97.6 %で比較的高いという気がする。 　工事内容は重要で早期の施工が望まれるとのことだが、もし、仮に、震災のような事情がなければ、落札率がそれ程高くなかったということはあるか。工事の種類としてはそんなに難しいものではないと思われるがどう考えるか。	・落札率について、業者が入札した結果であり、震災がなければという点も含め厳密に回答することは困難である。
・請負業者は取引先との厳しいやりとりがある中で、ぎりぎりの仕入れをしている。ある程度の価格の幅は業者間でわかっているのが通常である。 　目に見えて取引価格が開いてしまうような取引になる場合について考えられることは、何らかの理由で取引を成立させないためにあえて高い値をつけるような場合であって、それ以外で取引価格が開くことはあまり考えられない。 　そのような中、３者が予定価格内にだんご状態で連なり、それ以外の者の入札額が予定価格を超え離れている。どういうことか。	・憶測にはなるが、この工事は製品を仕入れて設置する工事で、製品の仕入れは民々の間での取引になる。業者がどのような価格で商品を仕入れているかにより差がでてくると思われる。
6　八幡平山系供養佛地区災害復旧工事	
・この災害復旧工事で、他に随意契約の候補となった会社は何者あるか。	・５者である。
・業者を選定するときは､実績を重視するのか、また、危険な場所の仕事であり、選ばれた業者はうれしくないのではないかと感じるがどうか。この発注者側からの契約の申し込みは強制力があるのか。業者にとって割が合わない工事のような気がするがいかがか。	・強制力のない中でお願いをしている。 　緊急随意契約自体が、こういう災害が起きたときだけの特殊な契約形態である。東日本大震災とか、この供養佛地区についても大勢の方が亡くなり、町全体が応急対策をしないと生活ができないという状況だったので、その緊急性を優先させて、東北地方整備局長と東北建設業協会連合会長が締結した「災害時における東北地方整備局所管施設の災害応急対策業務に関する協定」に定める会員の中から建設業協会に推薦してもらい、請けてくれるかを確認している。地域のために急を要する事態として協力をしてもらっている状況である。特殊な条件下であるため、業者から見積りを取り、標準積算を補正し契約している。このようなケースはあまり例はないが、そのときの状況に応じたやり方で、施工業者を選んでいる。
・極端な場合、請ける業者がいないこともある	・そういうことがないように、地域によっては協力業

意見・質問	説明・回答
のか。	者と協定を結んでいる。東日本大震災の道路啓開の時は､建設業協会を通じて公募という形で募集を行った。そのときは１者しか来なかったが、通常、災害が発生した場合は、各事務所で建設業協会を通じて応急復旧などやってもらう。 　この現場の場合は県管理の区間でもあり、建設業協会から推薦してもらい契約をした。
７　田瀬ダム耐震性能照査解析業務	
・２者入札に参加し、落札していない者の入札額が予定価格と乖離しているがどうしてか。	・予定価格を算出するときに、２者からの見積もりを参考にして予定価格を作成している。本業務では、ダム本体の解析と附属ゲート等関連構造物と大きく２つ照査しなければならない。応札した２者の見積内容について関連構造物の照査の部分において大きく乖離していた。そこの部分が２者のノウハウの違いではないかと思われる。なお、予定価格を作成した根拠となる歩掛は、参考資料としてすべて公表している。
・入札に参加した２者は、同種、類似の実績のうちどちらに該当したか。	・どちらの者も同種の実績である。
８　相馬福島道路（霊山～福島）事業監理業務	
・この共同体の構成員は、この業務の後に発注される本工事の競争に参加できるのか。	・工事に参加できない。
・業者から提出された技術提案書の中で、特定された業者の技術者の「コミュニケーション力」が他者より劣って評価されているが、そのような者に業務をお願いして大丈夫か。	・他者と比較するとコミュニケーション力のポイントが低いが、他の評価項目を含めた総合の評価で特定された。
・共同体構成員の業者がこの業務に参加すると､今後発注される関連工事に参加できないが、工事業者は、どのような考えで共同体構成員として参加しているのか。	・直接参加業者に聞いたわけではないが、業界の方々に聞くと、ＰＰＰが今後日本の土木業界で大きな潮流になるであろうと考えられ、その中で東北地方整備局が先行的に実施しているので、参加をして他社よりもＰＰＰのノウハウを多く得て、差別化を図りたいとの考えがあるという話を聞いた。
９　凍結抑制剤（塩化ナトリウム）購入単価契約【仙台】	
・輸入品であることから、為替レートで値段が決まってしまうとなると、入札した６者の値段の違いは何になるのか。	・一番大きいのは、輸送計画と、倉庫を持っているかどうかである。どこに置いてどういう形で輸送計画を立てるか。倉庫が自前か又は委託するかによって商品の単価が変わってくるので、値段も変わってくる。１回の輸入量が決まっているので、大量であれば安くできるし、少なければ安くならない傾向があると思われる。

意見・質問	説明・回答
・凍結抑制剤は、北海道・東北では必需品である。宮城県内だけで１億円の契約であるが、東北だと大きな金額になる。平成２１年度から県境や事務所担当地区にとらわれず、過去の実績のある備蓄港から最も効率的な輸送となるブロックを検討しながら発注している取組みはわかったが、例えば一つの港に揚げ東北管内１つの契約にできないか。	・港に揚げてから、それぞれ除雪基地のステーションに運ぶことになる。例えば、仙台港１箇所に揚げると運搬距離が長くなることから、逆に単価が上がってしまうことになる。よって、港を分散させた契約にしている。
・陸送の方がコストが高くなるのか。	・１回で運ぶ量が全然違うので、陸送の方が単価が高い。
・納入された凍結抑制剤は除雪ステーションで保管ということだが、保管するための保管料はかかるのか。また、空調が必要にならないか。	・当事務所のステーションの倉庫に置くだけなので、経費はかからない。大量の保管はせず、その都度の納入をしている。そのため長期保管にはならず、空調は必要ない。年度内に使う使用量は 4000t と大きく、１回の納入で除雪ステーションに入りきらないので、業者からはその都度使う分だけの納入をしてもらっている。
・例えば、どこかで余ってどこかで足りない時はどうするのか。	・大雪などで一部で凍結抑制剤が足りなくなり、他のところで余裕がある場合は、業者間で融通しあうことはある。
・輸入品とのことだが、どこの国のものか。	・平成２４年度の実績で中国が４８％、オーストラリアが４３％、メキシコが９％である。
・複数の国からの輸入はなぜ。	・商社がどこの国と契約しているかによる。 どこの国のものでないとだめということにしていない。
・品質は変わらないか。	・仕様として品質や粒度を決めており、それを満たしていればいいこととしている。
・過去の受注業者名が H21 から記載されているが、特定の者が強いように思うが。	・その者は倉庫を仙台に持っていると聞いている。 しかし、平成２２年度は、別の会社が落札している。また、東北管内５ブロックの落札業者のうち４ブロックは、当該地域に工場を持っていたり、地の利が良かったりしていることなどがある。

別紙－３

３．委員会による意見の具申又は勧告内容

本日の審議案件について、意見の具申又は勧告事項はない。

ただし、今後の入札契約手続き等において、１点要望がある。
現在、復興事業でたくさんの仕事があるが、見方によっては売り手市場になっている。案件が多くて大変だと思うが、より一層、透明性及び公平性の確保に努めて頂きたい。

【当局からのコメント】
ご要望いただいた点については、引き続き透明性及び公平性の確保に努めて参りたい。